

報道関係者各位:

Asian Art Award 2018 supported by Warehouse TERRADA

大賞 小金沢健人、特別賞 AKI INOMATA に決定

2017年に創設され、早くも2回目の開催となった Asian Art Award supported by Warehouse TERRADA(以下:AAA)。昨年11月、金澤韻氏、国枝かつら氏、服部浩之氏、山峰潤也氏、そして小澤慶介(AAA ディレクター)の5名が選考委員として、AKI INOMATA、小金沢健人、富井大裕、和田昌宏の4名をファイナリストに選出いたしました。ファイナリストは新作・準新作を制作し、TERRADA ART COMPLEX 4Fで展示(3月18日まで開催中)。

そして今月、秋元雄史氏、長谷川祐子氏、Joyce Toh氏、尤洋(You Yang)氏、包一峰(Bao Yifeng)氏ら審査員により、大賞に小金沢健人、特別賞にAKI INOMATAが選ばれました。審査会では「関係」そして「ダイアログ」がキーワードとして挙げられ、4名のファイナリストは単に自己表現するのではなく、「社会」や「環境」、「人間」、「生物」など、外界に存在するものとの関わりのなかで作品を作り上げ、いずれもメディアを自由に選びながら、日常とのダイアログと自然との関係の取り方が印象的との見解が出ました。

小金沢健人は今回、3つの作品を展示しています。ドローイングやオブジェクト、そして映像を組み合わせた空間構成は、それぞれ表現形式は異なりつつも、社会や日常の中に潜在する制御や境界を浮き彫りにするという点で作家の関心の軸を強く示しています。これまでのキャリアを含めて受賞に値すると評価されました。

AKI INOMATAはコントロールしきれない生き物との間で作品制作をしており、生き物を、社会的、歴史的な文脈と結びつけて、新しい共生のあり方を形成しようとしている点が評価されました。また、生き物を扱うにあたり、専門家など関わる関係者とのネットワーク、生態系のリサーチも含めた将来性から特別賞に選ばれました。

大賞と特別賞にはそれぞれトロフィー(工業デザイナー 川本尚毅氏制作)が授与されました。大賞には、賞金100万円の他に、副賞として制作活動場所(TAC ART STUDIO)と、上海(2018年11月予定)そしてアートフェア東京2019(2019年3月7日-10日/東京国際フォーラム)会場にて受賞作展示の機会が提供されます。



[大賞] 小金沢健人(左)と秋元雄史氏(右)



[特別賞] AKI INOMATA(左)と長谷川祐子氏(右)

アワード概要

Asian Art Award supported by Warehouse TERRADA は、日本からアジア、アジアから世界へと、今後ますます国際的な活躍が期待されるアーティストの支援を目的に創設された現代アートのアワードです。本アワードの対象は、現代アートの領域で活動し、同時代のグローバルな問題意識とともに世界を見通す力が作品に現れているアーティストです。

タイトル	: Asian Art Award 2018 supported by Warehouse TERRADA
主催	: 一般社団法人 アート東京
特別協賛	: 寺田倉庫
協賛	: TERRADA ART ASSIST 株式会社 株式会社イープラス
協力	: 文化庁

【特長】

- ・ 国内の若手から中堅キュレーター5名が候補アーティスト4名を選出
- ・ アートフェア東京 2018 と同時期に展覧会を開催し受賞者を発表
- ・ 国内外より招聘された審査員による大賞審査

【賞金および副賞】

大賞	賞金 100万円(予定)
副賞	上海での受賞作展示(予定)及び 作品制作場所の提供(半年間-1年間)(予定)*
特別賞	作品制作場所の提供(半年間-1年間)(予定)* *TAC ART STUDIO(TERRADA ART COMPLEX 2F)

【展示巡回】

ファイナリスト新作・準新作 — 2018年3月 TERRADA ART COMPLEX 4F(東京)開催中
大賞受賞作品 — 2018年11月 上海(予定)
大賞受賞作品 — 2019年3月アートフェア東京 2019(東京)(予定)

審査員 (敬称略)

秋元雄史	東京藝術大学大学美術館 館長・教授／金沢 21世紀美術館 特任館長
長谷川祐子	東京都現代美術館 参事／東京藝術大学 大学院国際芸術創造研究科 教授
林 洋子	文化庁 芸術文化調査官
Joyce Toh	シンガポール美術館 キュラトリアルチーム共同代表
尤洋	ユーレンス現代美術センター 副館長
包一峰	ART021 共同創設者

特別審査員 (敬称略)

隈研吾	建築家／東京大学 教授
-----	-------------

ファイナリスト選考委員 (敬称略)

小澤慶介	本アワードディレクター／アート 代表／インディペンデント・キュレーター
金澤 韻	インディペンデント・キュレーター／十和田市現代美術館 学芸統括
国枝かつら	丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 学芸員
服部浩之	インディペンデント・キュレーター
山峰潤也	水戸美術館現代美術センター 学芸員

[開催中] AAA2018 ファイナリスト展概要

会期 : 2018年3月3日(土)から3月18日(日)まで(会期中無休)
開館時間 : 月 - 金曜日 13:00-19:00
土曜日・日曜日 12:00-20:00
会場 : TERRADA ART COMPLEX 4F
東京都品川区東品川 1-33-10 入場無料



AKI INOMATA



小金沢健人



富井大裕



和田昌宏

トロフィーについて



受賞者に授与されるトロフィーは、工業デザイナーの川本尚毅氏によりデザイン・制作されました。様々な価値観・モノの捉え方が生まれる現代という大海原を、かつて船乗りが使用した六分儀をモチーフに、進むべき道を導きつけてほしいという想いが込められています。(製作協力:株式会社 中越工業)

川本尚毅(工業デザイナー・株式会社 N and R Foldings Japan 代表)
広島市呉市出身。東京造形大学卒業後に渡英し、Royal College of Art, Imperial College London の両大学院で工業デザイン工学の修士号を取得。ロドリゴ・ソロッサーノと共に N&R FOLDINGS を立ち上げ、帰国後 N&R FOLDINGS JAPAN を設立。平面と立体を行き来するものづくり手法を得意とし、折り紙をモチーフにしたバッグ“ORISHIKI”をはじめとするオリジナルプロダクトの開発から、現代美術家のサポートまで幅広く手掛ける。

主催・特別協賛について

ART
TOKYO
ASSOCIATION

主催: 一般社団法人 アート東京

一般社団法人 アート東京は、日本のアートマーケットの発展と芸術文化の振興を目的とし、アートに関連する様々な事業を企画・制作しています。国内最大級のアートの国際見本市「アートフェア東京」を主催するほか、日本のアート産業に関する市場調査の実施、アートを切り口に地域の魅力を外国人に紹介するアートツーリズム事業等、アートフェア東京で培ったネットワークを活かし日本のアートシーンの発展に寄与しています。

 TERRADA

特別協賛: 寺田倉庫

寺田倉庫は 1950 年の創業以来、美術品、メディア、ワインといった専門性の高い商品の保存・保管技術では国内外で高い評価を得ています。近年は拠点とする天王洲をアートの集積地・発信地とすべく、ミュージアム、画材ラボ、レンタルアトリエの運営、アートアワードの開催といったアート関連事業にも積極的に取り組んでいます。

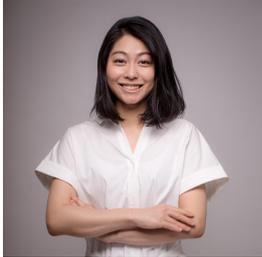
お問合せ先

- ・プレスリリースに関するお問合せ: 一般社団法人 アート東京 [島田]
E-MAIL: press@artfairtokyo.com / TEL: 03-5797-7912
- ・アワード、展覧会に関するお問合わせ: 一般社団法人 アート東京 [三木]
E-MAIL: office@asianartaward.com / TEL: 03-5797-7912

資料 AAA2018 ファイナリスト 4 名

AKI INOMATA

1983 年 東京都生まれ / 東京都在住



2008 年東京藝術大学大学院先端芸術表現専攻修了。生き物との協働作業によって作品制作をおこなう。主な作品に、都市をかたどったヤドカリの殻をつくり実際に引っ越しをさせる「やどかりに『やど』をわたしてみる」、飼犬の毛と作家自身の髪でケーブルを作ってお互いが着用する「犬の毛を私がまとい、私の髪を犬がまとう」など。近年の展覧会に、「Coming of Age」(Sector 2337、シカゴ、2017)、「KENPOKU ART 2016 茨城県北芸術祭」(2016)、「ECO EXPANDED CITY」(WRO Art Center、ヴロツワフ、ポーランド、2016)などがある。2017 年 ACC の招聘でニューヨークに滞在。

小金沢健人 Takehito Koganezawa

1974 年 東京都生まれ / 広島県在住



武蔵野美術大学映像学科卒業後 1999 年ベルリンへ渡り、同地で 18 年を過ごしたのち 2017 年に帰国。時間への興味を振り出しに、日用品の使い方からシャーマニズムまで、幅広く「意識の変容」に関心を持ちアプローチしてきた。映像、ドローイング、パフォーマンス、立体製作、インスタレーションと制作のメディアを拡張している。「Manifesta 4」(フランクフルト、ドイツ、2002 年)、「あいちトリエンナーレ 2010」(2010 年)などの大型国際展に参加多数。主な個展に KOGANEZAWA (Haus Konstruktiv, Zurich 2009 年)、Luftlinien (Haus am Waldsee, Berlin 2012 年)、煙のゆくえ(スパイラル 2016 年)など。

富井大裕 Motohiro Tomii

1973 年 新潟県生まれ / 神奈川県在住



既製品に最小限の手を加えることで、それらを固定された意味から解放し、色や形をそなえた造形要素として、「彫刻」のあらたな可能性を模索する。近年の個展に、「像を結ぶ」(Yumiko Chiba Associates viewing room shinjuku/東京、2017)、また主なグループ展に「MOT アニュアル 2011」(東京都現代美術館、2011)、「横浜トリエンナーレ 2011」(横浜美術館、2011)、「単位展—あれくらい それくらい どれくらい?」(21_21 DESIGN SIGHT/東京、2015)、「アーティスト・ファイル 2015 隣の部屋—日本と韓国の作家たち」(国立新美術館/東京、韓国国立現代美術館(果川館)/ソウル、2015-2016)などがある。

和田昌宏 Masahiro Wada

1977 年 東京都生まれ / 東京都在住



2004 年ロンドン大学ゴールドスミスカレッジファインアート卒業。個人としてアーティスト活動の他、現在「国立奥多摩美術館」や「Ongoing Collective」など、オルタナティブスペースやアーティストコレクティブの活動にも関わっている。近年の主な展覧会に「 $R_{\mu\nu}-1/2g_{\mu\nu}R=(8\pi G/c^4)T_{\mu\nu}$ 」(LOKO GALLERY、2016)、「どしゃぶりの虹(YAMAMBA)」(Art center Ongoing、2016)、「奥能登国際芸術祭 2017」(奥能登口伝資料館)、「富士の山ビエンナーレ 2016」(旧蒲原劇場、2016)、「国立奥多摩映画館」(国立奥多摩美術館、2016)、「国東半島芸術祭『希望の原理』」(旧香々地町役場、2014)、「横浜トリエンナーレ 2014」(横浜美術館、2014)などがある。